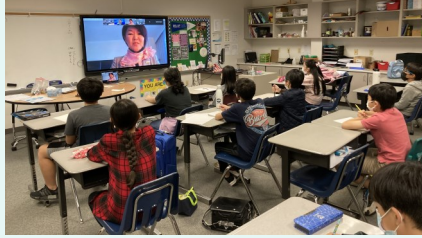


ヒューストン補習校ANA航空教室

～「安全で安心な運航のための取り組み」～



2月12日、本校5年生を対象に第5回 ANA航空教室が開催されました。今回も昨年度同様、本校にお越しいただくことはできませんでしたが、名川支店長、機長、副操縦士、整備士、客室乗務員、空港グランドスタッフの方々とオンラインでつながり、安全で安心な運航のための取り組み、情報の活用、及び環境保全についてお話を伺いました。



はじめに、山崎整備士より安全運航のための航空整備の役割について教えていただきました。航空整備士は「飛行機のドクター」として飛行機が安全に飛ぶための点検や、修理・管理を行っていると、児童たちに分かりやすく説明してくださいました。フライト前は必ず機体の点検が行われ、整備士の許可がないと飛行機が飛ぶことはできないそうです。運航中もパイロット・客室乗務員の方々が常に飛行機の状態を管理しているので、「飛行機は世界で一番安全な乗り物なので、安心して搭乗してください」とのことでした。他にも飛行機が飛ぶ原理についての講義があり、児童たちにとって楽しい科学の学習時間となりました。

続いて、川村機長、小野機長、野田副操縦士の3名様から、パイロットになられた理由や経歴、安全で安心な運航、環境保全についてお話がありました。安全に運航するための工夫のひとつとして、フライト中にタブレット端末を使用し、最新の気象情報や、揺れの少ない航路を選ぶために、各

地の管制官や同じ区域を飛んでいるパイロットから情報を得ているそうです。また、地上より近い気圧と湿度を保つことができる最新鋭の機材の導入により、機内でも快適に過ごすことができるようになっているとのことでした。昨今の環境問題に対しても、天ぷら油などの廃食油を原料とした新しい燃料の使用や、二酸化炭素の排出量削減など、最新の技術を導入した取り組みについて興味深いお話を聞くことができました。

最後に、客室乗務員の三国谷チーフパーサーから新型コロナ感染が広がる中での感染予防対策と、乗客が機内で安心して過ごすためのIT技術を活用した取り組みについてご説明がありました。機内は3分に1回という速さで空気が循環するシステムにより常に清潔な環境が保たれているそうです。接客時はマスク・手袋・ゴーグル着用し、感染予防に努められています。また、客室乗務員の方々がIT技術を活用し、機材の不具合や、遅延による乗客対応など地上と連絡を取りながら、目的地に到着後スムーズに動けるような体制をとっているとのことでした。

今回の航空教室では、乗客を安全で安心、かつ快適に目的地まで案内するために様々な努力がなされていることを知りました。また、今まで一番に残ったフライトなど、素敵な体験や楽しいお話もたくさん伺いました。児童たちが話に耳を傾け、熱心にメモを取り、講演終了後には互いに感想を伝え合う姿を見て、このような素晴らしい機会を設けていただきことにあらためて感謝いたしました。コロナ禍の厳しい状況の中、航空業界で働く皆様には大変なご苦労があると思いますが、日本の翼として今後の更なるご活躍を願っております。

(ヒューストン日本語補習校5年担任)



日本一時帰国体験記 (アメリカ帰国編)



日本の水際対策措置が徐々に緩和の方向へ向かっており、一時帰国がさらに容易になると思われます。日本での滞在を終えてアメリカへ戻る(帰国する)際には、国際線搭乗1日前以内のPCR検査陰性証明書を搭乗手続きで提示する必要があります。2月号では、復路用の陰性証明を入手できるFDA 承認のセルフ検査キットをご紹介しましたが、今回は体験談を通して2つの検査機関をご紹介致します。(編集部)

1月末帰国のAさん

木下グループで、アメリカに戻る前日にPCR検査を受けました。木下グループは、主要空港で展開されているため利便性が良く、他の検査施設よりは格安(1,900円～7,900円程度)とされています。

木下グループでは4種類の検査方法があり、いずれも完全予約制(希望日の5日前から可能)となっています。事前にサイトで受付けたい検査の空き状況を確認して予約を取ります。

2022年1月末の時点において、アメリカは陰性証明カードが発行される検査であれば入国が許可されます。木下グループでは、クイック検査やエクスプレス検査でも陰性証明カードが発行されるため、フライトスケジュールと相談し確実に陰性証明カードを手に入れる検査を選ぶことをお勧めします。カードの余白に自分で生年月日とサインを追記して提示したら搭乗が可能となります。

私は木下グループで「精度が高い」と記載のあるPCR検査を予約しました。「4時間で結果が出る」と書かれていますが、結論としては検査をしてから19時間後に陰性結果がメールで送られてきました。検査を受ける時間に落とし穴があり、15時までに実施した検査なら同日の20時までに結果が届くとありますが、私は長蛇の列に並んだうえ、事前登録が必須となるアプリの情報登録に時間を費やしてしまい、予約した時間より遅い15時半に検査キットを受け取りました。検体提出窓口へキットの検体を提出したところ、「翌日中に結果が来る」と係員に告げられました。翌朝のフライトに間に合うか不安になりましたが、完全予約制のため、クイック検査やエクスプレス検査を諦めて結果が届くのを待ちました。翌朝、結果が届かないため、アメリカ帰着便にギリギリ間に合うフライトに変更して、朝一番の時間枠でクイック検査の予約を取り、直ぐに検体を提出してなんとかアメリカ帰着便のフライトに間に合いました。

航空会社に聞いたところ、アメリカ以外の国ではクイック検査やエクスプレス

検査は認可されていないそうです。ご自身が搭乗される直前まで、入国時に必要とされる条件を逐次確認されることをお勧めします。

※検査場が空いていても予約がないと検査を受けられないためご注意ください。

2月中旬帰国のBさん

医道五十三次クリニックで、アメリカへの帰国のためのPCR検査を受けました。このクリニックは、航空会社のサイトにも東京都内の検査機関として紹介されており、知人も実際にアメリカ渡航時に利用して無事渡航できたことを確認していたので安心かと思いました。同クリニックには、1週間前に予約を取り、24時間以上前に15,000円をクレジットカードで決済(当日の場合は券売機のようなところで現金で支払い)しました。HPには13:30までに検査した場合には当日結果通知とありましたので、帰国便の24時間前でもある(気持ち的に)11時に予約を入れました。クリニックの場所は品川で、北品川駅から徒歩2分ほどでした。



検査時には、結果の受け取りは午後6時以降になると言われましたが、実際には午後3時過ぎに証明書が添付された(パスワード付き)メールを受け取りました。

私はJAL便利用のため、前日にVeriFLYという新型コロナウイルス感染症関連デジタル証明書アプリに登録を済ませ、受け取った陰性証明をアップロードしておきました。こちらに登録しておく、アメリカ入国時の宣誓書や陰性証明などを一元化できて、空港チェックインカウンターでの手続きもアプリのみの確認で簡単でした。念のため、陰性証明は携帯の写メと印刷した紙で提示できるように持参していましたが、アメリカでの入国手続きの際にも一切確認されませんでした。

ANAの場合は、ANA Travel Readyという同様のアプリがあり、利用されると便利かと思えます。

成田空港の店舗は、書店、レストラン等もほとんど開いておらず閑散としていました。皆様が渡航される頃には徐々に店舗も再開していることを願っております。

(※本記事の情報は3月15日現在のものです。ご自身の帰国に合わせて最新情報を必ずご確認ください。)